

第2回 魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議資料

目次

次第 03

配布資料一覧 04

魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議設置要綱 05

アドバイザー名簿 06

資料1 第1回魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議での意見について 07

■ 第1回アドバイザー会議での意見（概要）

資料2 澤田アドバイザー講話
「企業の求める人物像」 09

■（別紙）

資料3 魅力ある県立高校づくりについて 10

■ 今後の専門学科の在り方について

- 1 現状・課題・論点
- 2 特色ある高校の事例

資料4 小栗アドバイザー講話
「多様なニーズに対応した学校づくり」 13

■（別紙）

資料5 魅力ある県立高校づくりについて 14

■ 多様な生徒のニーズに対応した学校について

- 1 現状・課題・論点
- 2 特色ある高校の事例

参考資料 別添

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| ①魅力ある県立学校づくりの方針（H28策定） | ⑥高校教育に関する主な国の答申等（概要） |
| ②埼玉県5か年計画（ダイジェスト版） | ⑦県立高校の特色化に向けたアンケート結果について |
| ③埼玉教育の振興に関する大綱 | ⑧参考データ |
| ④第4期埼玉県教育振興基本計画 | |
| ⑤国の第4期教育振興基本計画（概要） | |

第2回 魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議

次 第

令和6年8月1日（木）15：00

場所：教育委員会室

- 1 開会
- 2 アドバイザー紹介
- 3 第1回魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議での意見について
- 4 魅力ある県立高校づくりについて
 - ・ 今後の専門学科の在り方について
 - ・ 多様な生徒のニーズに対応した学校について
- 5 その他（事務連絡）
- 6 閉会

配布資料一覧

- 次第、配布資料一覧、アドバイザー会議設置要綱、アドバイザー名簿
- 資料1 第1回魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議での意見について
- 資料2 澤田アドバイザー講話「企業の求める人物像」
- 資料3 魅力ある県立高校づくりについて ～今後の専門学科の在り方について～
- 資料4 小栗アドバイザー講話「多様なニーズに対応した学校づくり」
- 資料5 魅力ある県立高校づくりについて ～多様な生徒のニーズに対応した学校について～

○その他参考資料

- ① 魅力ある県立学校づくりの方針（H28策定）
- ② 埼玉県5か年計画～日本一暮らしやすい埼玉へ～
（ダイジェスト版）
- ③ 埼玉教育の振興に関する大綱
- ④ 第4期埼玉県教育振興基本計画
- ⑤ 国の第4期教育振興基本計画（概要）
- ⑥ 高校教育に関する主な国の答申等（概要）
- ⑦ 県立高校の特色化に向けたアンケート結果について
- ⑧ 参考データ

魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議設置要綱

(設置)

第1条 魅力ある県立学校づくり推進委員会（以下「推進委員会」という。）における魅力ある県立高校づくりの検討事項について、有識者・関係者から幅広い意見を聴取するため、魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議（以下「アドバイザー会議」という。）を設置する。

(アドバイザーの選任)

第2条 アドバイザーは、学識経験を有する者、学校及び行政機関の関係者のうちから、埼玉県教育委員会教育長が選任するアドバイザー18名以内とする。

(アドバイザーの任期)

第3条 アドバイザーの任期は、令和7年3月31日までとする。

(会議の公開)

第4条 アドバイザー会議は、原則として公開とする。ただし、出席したアドバイザーの3分の2以上の多数で議決したときは、非公開とすることができる。

(運営)

第5条 アドバイザー会議の運営は、推進委員会委員長及び教育局県立学校部魅力ある高校づくり課において行う。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、アドバイザー会議の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、令和6年4月1日から施行し、令和7年3月31日をもってその効力を失う。

アドバイザー名簿

氏名	職業等	出欠	氏名	職業等	出欠
益川 弘如	青山学院大学教授	欠席	船橋 幸代	埼玉県PTA連合会副会長	出席 (会場)
小栗 貴弘	跡見女子学園大学教授	出席 (オンライン)	柿沼 光夫	久喜市教育委員会教育長	出席 (会場)
渡辺 大輔	埼玉大学ダイバーシティ推進センター 准教授	出席 (会場)	中村 敏明	宮代町教育委員会教育長	出席 (オンライン)
澁川 幸加	中央大学文学部教育学専攻特任助教	欠席	江原 勝美	所沢市立所沢中学校長	出席 (会場)
奥平 博一	角川ドワンゴ学園専務理事 N高等学校長	欠席	池田 靖	県立越ヶ谷高等学校長	出席 (会場)
萩原 裕子	FUTURE DESIGN 副代表	出席 (会場)	服部 修	県立秩父農工科学高等学校長	出席 (会場)
内田ひとみ	(株)HUGRES 代表取締役	出席 (オンライン)	岩田 輝子	県立狭山緑陽高等学校長	欠席
澤田 修	埼玉県商工会議所連合会 常務理事兼事務局長	出席 (会場)	川邊 友子	県立幸手桜高等学校教諭	欠席
関根 弘子	埼玉県高等学校PTA連合会副会長	出席 (会場)	中川 未来	県立春日部高等学校教諭	出席 (会場)

第1回魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議での意見について

第1回魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議での意見（概要）

（学校の特徴）

- ・総合学科のような幅広い内容を学べる高校づくりが必要。
- ・不登校や外国籍の生徒、発達に課題がある生徒などの学び直しに応える高校が必要。
（リアルとオンラインのハイブリットな高校、通信制高校、昼夜開講多部制定時制高校、高校での通級指導の充実など）
- ・地域の活性化や、地域の子供たちのためにもなるので、中高一貫校の設置検討を。

（授業内容や手法）

- ・教員以外の外部講師を招いたり、実社会の企業と連携した授業の実施や、色々な分野のことを自分で調べて学ぶような教科横断的な学びなどを通して、自分の好きなものに出会えるチャンスが沢山あることが必要。
- ・オンライン授業やオンデマンド配信などを活用し、専門性の高い授業の他校との共有や、日本語指導の充実が必要。
- ・専門学科では、社会の変化に対応した新しい技術の学びを実現することが必要。
- ・専門学科の学びが、大学などの進学後にアドバンテージになることが必要。
- ・女性活躍に向けた積極的なキャリア教育や起業家精神の育成が必要。
- ・文系と理系の垣根を超えた人材やグローバル人材の育成が必要。
- ・様々な領域の土台となる人権や倫理の学びがしっかり学べることが必要。

（公立高校の役割）

- ・公教育は教育費をふんだんにつぎ込めないような家庭の子供に、廉価で上質な教育をしていくことが必要。
- ・国公立大を目指すような生徒も、学び直しが必要な生徒も預かることが必要。
- ・公立高校には場所としての役割と地域の担い手育成という役割がある。
- ・少数であれ、トランスジェンダーの子も居心地良く過ごせるようにすることが必要。

（教員について）

- ・オンライン授業やオンデマンド配信などの活用は教員の負担軽減にもなる。
- ・魅力的な高校にするためには、教員が生き生きと仕事ができるようにすることが必要。
- ・教員には生徒の生活面やメンタル、人間関係なども含めて、面倒を見て欲しい。

澤田アドバイザー講話
～企業の求める人物像～

魅力ある県立高校づくりについて
～今後の専門学科の在り方について～

今後の専門学科の在り方について

1 現状・課題等

現状・課題

- 産業構造の変化やICT技術の進展、進路希望の多様化により、専門学科に求められる学びも変化している。地域産業の持続的な発展を支える職業人を育成するという職業系を主とする専門学科に期待される役割も踏まえ、時代の変化をとらえた指導内容への転換が必要。
- 小学科が多く学びの内容が細分化しているが、実社会で働く上では、多分野との連携・協働も求められる。また、中学生は広く様々な分野を学べる学科への進路を希望している傾向。
- 進路選択を検討する中学生にとって、専門学科における高校生活や学びの内容がイメージしにくい。

国・県の計画等

教育振興基本計画（R5.6）

- 探究・STEAM教育、文理横断・文理融合教育、アントレプレナーシップ教育等の推進

新しい時代の高等学校教育の在り方WG（審議まとめ）（R2.11）

- 産業界と高校が一体となった社会に開かれた教育課程の推進が重要
- 実社会で働く上では多分野との連携・協働も求められることから、複数の職業教育を主とする学科を設置している高等学校においては（中略）多分野に関する知識及び技術等の習得を目指すことも有効
- 職業系を主とする専門学科を卒業後に大学等に進学する生徒も少なくないことから、地域産業界を支える実践的な職業教育を中核としつつも、高等教育機関等と連携・協働し、先取り履修等の取組を推進
- 中学生の自律的・主体的な進路選択及び高等学校における学びの充実の観点からも、職業系を主とする専門高校の教育内容、最先端の学びを主体的に行っている生徒の実像についての発信強化

第4期埼玉県教育振興基本計画（R6.7）

- 教科横断的な学びや地域社会と連携・協働による学びの推進
- 実践的で高度な専門的知識・技能の習得を図る産業教育に取り組む
- 生徒による学習成果の発表の場である埼玉県産業教育フェアの開催などを進める
- 生徒・保護者の教育ニーズに対応するとともに、時代や社会、地域の要請に応え、持続可能な社会の創り手となる人材を育成するため、高等学校の特色化を推進

【論点】

◆産業構造の変化や、地域産業の持続的な発展を支える職業人を育成するという専門学科に期待される役割などを踏まえ、どのような学び、どのような県立高校が必要か。

◆中学生に興味関心を持ってもらえるような魅力ある専門学科にし、かつその魅力をしっかり中学生に伝えるにはどのようなことが重要か。 など

県立高校 農業・工業・商業・家庭系学科の小学科一覧

農業（14科）	工業（18科）	商業（7科）		
（農業・園芸系） ・農業科 ・園芸科 ・造園科 ・園芸デザイン科 ・環境デザイン科 （森林） ・森林科学科 （経済） ・農業経済科	（食品） ・食品科学科 ・食品流通科 ・食品化学科 （生活） ・生活技術科 （生物） ・生物生産工学科 ・生物生産技術科 ・生物資源科	（電気） ・電気科 ・電気システム科 （機械） ・機械科 ・機械システム科 ・ものづくり科 （ロボット） ・電子機械科 （建築・土木・設備） ・建築科 ・土木科 ・設備システム科 ・環境建設科	（情報） ・情報技術科 ・情報通信科 ・情報メディア科 ・情報電子科 （デザイン） ・デザイン科 （化学） ・化学科 ・工業化学科 （環境） ・環境科学科	（商業） ・商業科 ・総合ビジネス科 （会計） ・会計科 ・ビジネス会計 （情報） ・情報処理科 （経済） ・流通経済科 ・国際流通科
家庭（5科）	（食物） ・食物調理科 ・フードデザイン科 （家政・生活） ・家政科学科 ・ライフデザイン科	（被服） ・服飾デザイン科 （保育） ・保育科		

県立高校の特色化に向けたアンケート結果 ※参考資料⑦から抜粋

中学生 回答者数 33,208名

○今後、どのような学校で学んでみたいと思いますか。（2つまで選択）

選択が多かった上位3項目	
毎朝同じ時間に登校して学ぶことができる高校（全日制）	29.8%
教科や科目を自ら選択できる総合学科や単位制の高校	22.6%
複数の学科を設置し、学科を越えて連携・協働した学びができる高校	20.5%

中学生保護者 回答者数 21,993名

○全日制高校のほか、今後の県立学校には、どのような学校が必要と思いますか。（2つまで選択）

選択が多かった上位3項目	
教科や科目を自ら選択できる総合学科や単位制の高校	32.0%
複数の学科を設置し、学科を越えて連携・協働した学びができる高校	28.1%
6年間を一貫したカリキュラムで学ぶことができる中高一貫校	11.8%

概要

実践的な学びが充実した
高校の例

会社等を運営しながら学べる学校

- ・生徒が株主となり本物の会社を運営しており、それぞれの学科での学びを生かしてネットビジネスや海外物販など様々な事業を展開する中で実践的・体験的な教育を実現。
- ・その他、地域と連携したレストラン運営や商品開発、農作物販売やふれあい農園を開催することなどを通して実践的な学びを実施する高校もある。

学科の強みを生かした
幅広い学びを実現する
高校の例

普通科、専門学科、総合学科を併設した学校

- ・普通科と農業科を併設し、互いの学びを共有できる総合選択制の教育課程を編成。学科を横断した選択科目を用意し、生徒の興味や進路希望にあわせて、時間割の作成が可能。
- ・普通科では、農業科や家庭科の専門科目の選択が可能のほか、農業科の生徒と地域に根付いた活動もできることで総合型選抜などによる大学入試でも強みを発揮できる。また、農業科では、進学コースと専門コースがあり、普通科を併設している強みを生かした進学へのサポートや実践的な学びを通して幅広い進路に対応。
- ・その他、普通科と工業、商業、総合学科の併設など組み合わせは多様。
- ・学科を混合した班を作り、学科を問わず、生徒が協力できる学びの場を作ることで、様々な考えなどに触れ、生徒の潜在的な力の発見と成長を促している高校もある。

地域産業の強みや、
社会のニーズをとらえた
魅力ある学科を設置する
高校の例

航空機械工学科

- ・地域の成長産業を担う技術者確保が課題となっている地域では、航空機械工学科を設置。企業の協力を得て、より高い精度が要求される実習などを実施する中で、航空機械だけでなく自動車など幅広い分野で活躍できる人材育成につなげている。

環境創造科

- ・生活の基盤を支える「街づくり」と「国土保全」を基本にしながら、循環型社会の形成を目標とした新たな環境を創造していくことができる技術者養成を目指し、環境創造科を設置。
- ・街づくりや地域防災など、都市景観・地域デザインの知識・技術や、循環型社会に対応した社会基盤整備についての知識・技術が学べる。

小栗アドバイザー講話
～多様なニーズに対応した学校づくり～

魅力ある県立高校づくりについて
～多様な生徒のニーズに対応する学校について～

多様な生徒のニーズに対応した学校について

1 現状・課題・論点

現状・課題

(1) 不登校経験生徒・日本語指導が必要な生徒の増加等

- ・令和4年度中学3年生の不登校生徒数は3,536名。平成30年度と比較すると約1.6倍
- ・令和3年度の日本語指導が必要な県立高校生徒数は344名。平成24年度と比較すると約1.8倍
- ・高校生の中途退学防止のほか、特別な教育的支援を必要とする生徒やヤングケアラー、LGBTQの生徒への支援なども必要であり、多様なニーズに対応した高校が求められる。

(2) 通信制高校へのニーズの高まりや多部制定時制への安定したニーズ

- ・通信制高校の生徒数は年々増加し、通信制生徒数は定時制生徒数の約4倍。
- ・県立通信制高校は大宮中央高校1校であるが、令和5年度通信制高校への進学者は公立・私立合わせると約4,000人(=高校進学者の6.4%)
- ・全体の生徒数が減少する中、夜間定時制の生徒数も減少。昼間定時制の生徒数はほぼ横ばい。

国・県の計画等

教育振興基本計画 (R5.6)

- ・特別支援教育、不登校児童生徒への支援、ヤングケアラーの支援などの推進

COCOLOプラン(文部科学省)(R5.3)

- ・不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整えます
学校に来られなくてもオンライン等で授業や支援
- ・学校に戻りたいと思った時にクラスを変えたり、転校したりするなど希望に沿った丁寧な対応
- ・学校の風土の「見える化」を通して、学校を「みんなが安心して学べる」場所にします
障害や国籍言語等の違いに関わらず、色々な個性や意見を認め合う共生社会を学ぶ場に

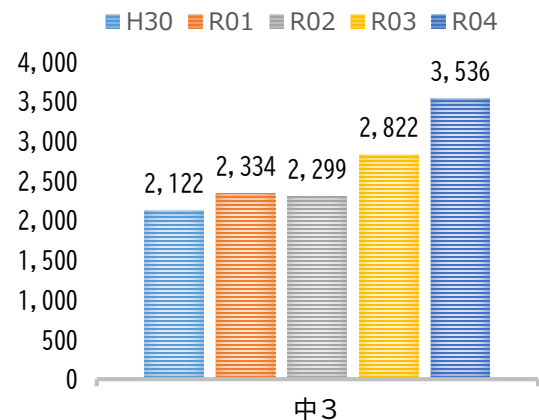
第4期埼玉県教育振興基本計画(R6.7)

- ・不登校などを経験した生徒の意欲に応える学習機会を提供するため、高校において基礎・基本の学び直しの取組や定時制課程・通信制課程の教育の充実
- ・特別な教育的支援を必要とする児童生徒への切れ目のない支援体制の整備
- ・日本語指導が必要な児童生徒、ヤングケアラー、LGBTQの児童生徒を支援
- ・生徒・保護者の教育ニーズに対応するとともに、時代や社会、地域の要請に応え、持続可能な社会の創り手となる人材を育成するため、高等学校の特色化を推進

【論点】

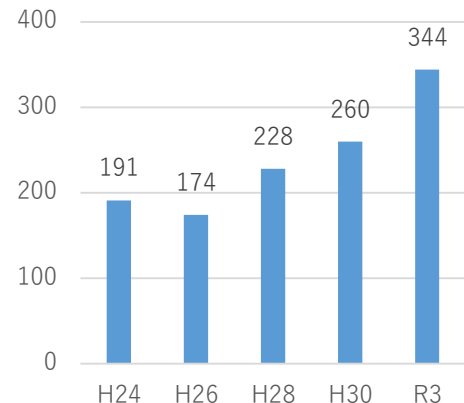
- ◆多様なニーズのある生徒が安心して学べる環境づくりにはどのようなことが必要か。 など

中学3年生の不登校生徒数の推移



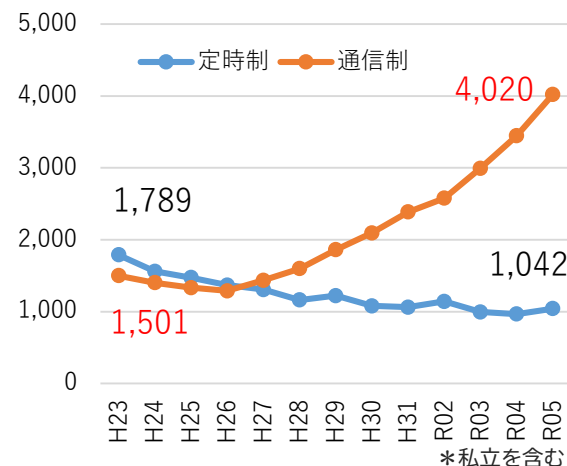
出典：埼玉県公立学校における児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査

県立高校に在籍する日本語指導が必要な生徒数の推移



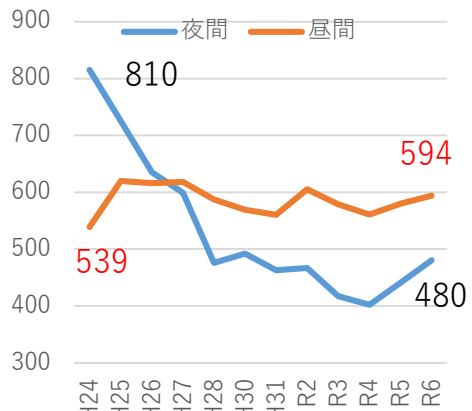
出典：文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受け入れ状況等に関する調査」をもとに魅力ある高校づくり課がグラフ化

県内定時制・通信制*の生徒数推移



出典：中学校等卒業者の進路状況調査

県立高校定時制(昼間、夜間別)の生徒数推移



出典：「埼玉県公立高等学校入学許可候補者数」をもとに魅力ある高校づくり課がグラフ化

概要

フレキシブルな学びを実現する高校の例

全日制・定時制・通信制それぞれの学び方の強みを生かした高校

- ・全日制単位制普通科と昼間定時制単位制普通科、通信制を併設した高校。
- ・併修（通信制の生徒が全日制・昼間定時制の授業を受けるなど）や年度末の課程間異動（全日制から昼間定時制課程に変更など）も可能となっているため、生徒の状況に応じた多様な学び方を実現。
- ・全日制普通科には、普通類型と国際類型を設け、昼間定時制には普通類型と日本語類型を設けている。語学に強いことを特色の一つにしており、複数言語の授業を選択可能で、英語を中心とした国際理解教育だけでなく、充実した日本語学習により、日本語指導が必要な生徒にも対応。

- ・フレキシブル課程と銘打ち、平日登校コース（多部制定時制単位制）と通信教育コース（通信制課程）を設けた総合学科（キャリアデザイン科）の高校。
- ・併修やコースの異動も可能としているほか、総合学科として、いずれのコースも共通科目に加え、工業、商業、福祉等の専門科目からの選択が可能で幅広い学びを実現。
- ・また、学び直し講座や大学と連携したソーシャルスキルトレーニングの実施、日本語指導や通級指導も特色とする。
- ・通常のクラス編成をせずに、原則、入学時に担当した教員が卒業まで担任として持ち上がっていくチューター（個別の指導者）制。

多様な生徒のニーズに対応した高校の例

能力や適性を十分に生かし切れなかった生徒の学び直しなどに応える高校

- ・生徒の学習や学校生活への意欲を重視するなど、これまでの状況に配慮した入試を実施。
- ・入学後は、「わかる国語」といった基礎科目の開設や、少人数・習熟度別指導などにより、基礎的・基本的な学力の定着や中学校の復習にも対応できるようにしたり、ボランティアなどの体験的な学習も重視。
- ・コミュニケーション能力や社会性の育成にも力を入れており、教育相談体制なども充実した高校。

多文化共生を特色とする高校

- ・普通科に加え多文化共生科を設置。多文化共生科には、中国語専攻、英語専攻、日本語コースがある高校。
- ・中国語専攻、英語専攻では、中国語や英語だけの授業の実施や国際交流なども実施。日本語コースでは、日本語の習得を通して、日本の大学等への進学や就職を目標としており、1年次には日本語と英語を中心に学び、日本語能力の向上につれて、他の科目を学んでいく教育課程。また多文化共生をテーマとした探究活動も実施。

特別な支援が必要な生徒との共生を目指す高校

- ・通級指導を実施する高校や、高校の敷地内に特別支援学校分校を設置し交流する高校、知的障害のある生徒を対象に特別募集を行う高校がある。